

政策番号	6	政策分野	文化
------	---	------	----

基本方針	くらしのなかに文化芸術がいきいきと息づき、ひとびとの豊かな感性が育まれるとともに、そこで生まれる活力やにぎわいが、まちの活性化につながることをめざして、文化芸術とまちづくりを一体化させた取組を促進する。このような取組を通じて、京都を魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生する。
------	---

担当局	文化市民局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する 主な分野別計画等	第2期 京都文化芸術都市創生計画, 京都文化芸術プログラム2020 ⁺
--------------------	--

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価	平成23 評価値	令和2 目標値	平成 30	令和 元	令和2年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 市民ふれあいステージ出演申込数(件)	103	99	d	b	96	96	99	97.0%	c
2 京都市芸術文化特別奨励制度応募者数(件)	77	82	d	c	68	48	82	58.5%	e
3 文化施設の年間入場者数(人)	3,125,718	3,412,973	a	c	3,046,188	2,903,086	3,412,973	85.1%	d
4 本市が指定, 登録等をした文化財等の数(件)	72	57	-	a	80	59	57	103.5%	a
			b	b					c

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	平成30	令和元	令和2
0601	すべての市民が京都のまちを支え, かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり(4指標)	c	b	d
0602	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援(3指標)	d	d	d
0603	世界的な交流を視野に入れた文化芸術環境の向上(2指標)	c	d	e
0604	かけがえのない文化財の保護, 活用と伝承(3指標)	a	a	a
(4施策平均)		c	c	d

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価: 施策の客観指標評価=1:0.5)	平成30	令和元	令和2
	b	b	c

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		平成30	令和元	令和2 [※]
1	京都では, 文化芸術にかかわる活動が盛んである。	a	a	-
2	市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。	b	c	-
3	文化・芸術活動によって, 京都のまち全体が活気づいている。	b	b	-
4	文化財が社会全体で大切にされ, 地域の活性化にもつながっている。	b	b	-
政策の市民生活実感調査総合評価		a	b	-

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

平成30年度		令和元年度		令和2年度 [※]	
順位	%	順位	%	順位	%
17	82.1%	19	78.7%	-	-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	B	令和元	B	令和2	C	政策の目的がそれぞれ達成されている
------	---	-----	---	-----	---	-------------------

<原因分析>

【客観指標総合評価】

- b 評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
- c 評価以下であり、次の原因が考えられる。
- ・文化施設の入場者数について、新型コロナウイルス感染防止のため、イベントの中止を行うなどの影響から、入場者数が伸び悩んだ。
 - ・京都市芸術文化特別奨励制度の応募者数が減少したことについて、申請方法が郵送に限るなど煩雑であることが要因として考えられる。

【市民生活実感調査総合評価】

- b 評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
- c 評価以下であり、次の原因が考えられる。

【総括】

・客観指標評価については、「京都市芸術文化特別奨励制度応募者数」の減少や、新型コロナウイルス感染拡大の影響等による「文化施設の年間入場者数」の減少等があり、全体的な客観指標の評価は下がる結果となった。

市民生活実感評価においては、「京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。」の評価が高いことから、全体的にも高い評価で推移しており、これらのことから、総合的に判断して、政策の目標はそれぞれ達成されていると評価できる。

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		平成30	令和元	令和2
0601	すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり	B	B	C
0602	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援	C	C	C
0603	世界的な交流を視野に入れた文化芸術環境の向上	B	C	C
0604	かけがえのない文化財の保護、活用と伝承	A	A	A

<今後の方向性>

- ①すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり**

・文化庁の全面的な移転を控え、文化を基軸としたまちづくりをこれまで以上に推進し、世界的な文化芸術都市・京都の創生を目指すため、継承と創造に関する人材の育成等、創造環境の整備、文化芸術と社会の出会いの促進の3点を重視し、文化芸術によるまちづくりを進める。
- ②歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援**

・継承と創造に関する人材の育成においては、伝統芸能文化の更なる創生に向けた取組や、芸術家の育成・活動支援、文化芸術に親しみ、その楽しさを知る子どもたちの育成に取り組む。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、発表・制作等の機会を失っている文化芸術関係者に対して支援を行行うとともに、ICTを活用し、助成金の申請をオンラインで行えるようにするなど、支援対象者の利便性向上に取り組む。
- ③世界的な交流を視野に入れた文化芸術環境の向上**

・新型コロナウイルス感染症の影響が予想されるが、ロームシアター京都については、新たな文化創造の場、世界文化自由都市・京都を発信する拠点として魅力ある自主事業の展開に努め、他の文化施設とも連携した事業を展開する。

・また、アート×サイエンス・テクノロジーをテーマに文化芸術の新たな可能性と価値を世界に問う新しい形態の国際的な文化・芸術の祭典「KYOTO STEAM-世界文化交流祭-」事業を進め、今後の展開について調整していく。
- ④かけがえのない文化財の保護、活用と伝承**

・引き続き、指定・登録の対象物件調査に取り組むとともに、“京都を彩る建物や庭園”については、ホームページでの情報発信のみならず、区役所や関係団体イベント等でのチラシ配架などによる積極的な周知を行い、選定件数を増やすことで、京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園の維持・継承の促進を図る。また、“京都をつなぐ無形文化遺産”の選定及び普及啓発を通じ、価値ある無形文化遺産の魅力発信とともに、市民的気運の盛り上げを図っていく。

政策名	6	文化
指標名	市民ふれあいステージ出演申込数（件）	
担当部室	文化芸術都市推進室	連絡先 366-0033
1 指標の説明		
市民ふれあいステージ（市民に文化活動の場を提供し、多くの方が気軽に文化芸術に触れる機会を創出するため、市民参加型の催しとして、毎年10月に開催）への出演申込数		
2 指標の意味		3 算出方法・出典等
文化芸術が市民の日常生活の中に溶け込んでいることを示す指標		出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後（令和2年度）の目標値	平成23年度評価値 103	令和2年度目標値 99
	根拠 平成27年度～令和元年度実績の最高値を目指す	
	前回数値 平成30年度 96	最新数値 令和元年度 96
	推移 増減なし	単年度目標値 数値 99
		根拠 過去5年間（平成26～30年度）の最高値（平成28年度）
		達成度 97.0%
	全国順位	中長期目標
	数値	目標年次
	達成度	根拠
数値	-	-
		備考
		H26 92件 H27 94件 H28 99件 H29 88件 H30 96件 R元 96件
5 評価基準		6 基準説明
最新の数値が、過去5年間の a：最高値以上 b：上中間値（最高値と平均値の間）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の間）以上～平均値未満 e：下中間値未満		申込数は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較するため、過去5年間の数値をもとに、基準を設定した。 最高値：99（平成28年度） 平均値：94 最低値：88（平成29年度）
7 評価結果		
平成30	令和元	令和2
d	b	c

指標名	京都市芸術文化特別奨励制度応募者数（件）	
担当部室	文化芸術都市推進室	連絡先 366-0033
1 指標の説明		
京都市芸術文化特別奨励制度（将来に向けて積極的な芸術文化活動を行う、若い芸術家等の育成を目的として奨励金を交付）への応募者数		
2 指標の意味		3 算出方法・出典等
文化芸術の新たな創造活動が活発に行われていることを示す指標		出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後（令和2年度）の目標値	平成23年度評価値 77	令和2年度目標値 82
	根拠 平成24～26年度実績の平均値を目指す（京プラン実施計画 第2ステージ）	
	前回数値 平成30年度 68	最新数値 令和元年度 48
	推移 20件減	単年度目標値 数値 82
		根拠 平成24～26年度実績の平均値
		達成度 58.5%
	全国順位	中長期目標
	数値	目標年次
	達成度	根拠
数値	-	82 令和2年度 58.5% 京プラン実施計画 第2ステージ
		備考
		H24 72件、H25 85件 H26 90件、H27 57件 H28 99件、H29 62件 H30 68件、R元 48件
5 評価基準		6 基準説明
単年度目標値に対する達成度が a:100%以上 b:90%以上100%未満 c:80%以上90%未満 d:70%以上80%未満 e:70%未満		達成度100%以上をaとし、以下10%刻みで基準を設定
7 評価結果		
平成30	令和元	令和2
d	c	e

